

『メロン・ミカンのデータによる 栽培と野菜のCO₂施用技術』

今回は、静岡農業高校を会場に、大学研究者、企業、高校関係者が講演や発表を行います。
講演者や発表者等と交流を持ち、今後の企業活動等に活かしていただければ幸いです。多数の方
のご参加をお待ちしております。

2026 年 1 月 30 日 金

講演会

16:00~18:00

会場

静岡県立静岡農業高等学校 5階 視聴覚室
静岡市葵区古庄3-1-1



本会には、宝くじ
収益金の一部が
使用されています

研究
発表

『経験と勘に頼らないメロン栽培を目指した研究』

静岡県立磐田農業高等学校 メロン栽培研究班

企業
発表

『150年の歴史と最新技術のハイブリッド型農業』

株式会社青木農園 代表取締役 青木 文優 氏

講演

『ハウス栽培の野菜の収量を上げるCO₂施用技術』

静岡大学 農学部 生物資源科学科 教授 鈴木 克己 氏

*静岡農業高校食品科学部生徒さんによるお土産があります。

参加料

無料

定員

会場聴講：60名

【申込方法】 下記申込書に記入して Fax、e-mail で申し込み下さい。
又、QR コードからの申し込みもできます。

【事務局】 静岡市清水産業・情報プラザ（静岡商工会議所） 担当：稲葉、堀川
TEL:054-355-5400 FAX:054-352-7817 e-mail:info@siip.jp

申込先は
こちら



参加申込書

第 161 回「移動産学官交流」講演会（静岡農業高校）

2026 年 1 月 30 日（金）開催

Fax 054-352-7817

事業所名		Tel	
所在地		Fax	
参加者名	(役職名：)	(役職名：)	
e-mail			

※申込書にご記入いただいた情報は、当日名簿として利用するほか、商工会議所からの各種連絡・情報提供に利用する事がありますので
ご了承ください。又、今後の『産学官交流講演会』のご案内を送付させていただきます。
(原則 e-mail 案内とさせていただきます。)

研究 発表

『経験と勘に頼らないメロン栽培を目指した研究』

静岡県立磐田農業高等学校 メロン栽培研究班

静岡県の温室メロンは全国的に高い評価を得ていますが、作付面積と生産量は年々減少傾向にあります。また、生産者の平均年齢は60歳を超えていることから、後継者育成が大きな課題です。この課題を解決するため、メロン栽培技術をデータ化し、誰もが容易に栽培できるようにすることを本研究の目的としました。今回の研究では、土壌水分をモニタリングしながら、メロン栽培に適した灌水量を明らかにすることに焦点を当てました。

研究1では、農家である新村氏と同じ灌水を行うことで、学校温室でも出荷基準のメロンを生産できることを確認しました。研究2では、ネット発生期間の土壌水分を高めた多灌水區を設定して影響を評価しました。

本研究を通じて、農家の灌水を模倣することで学校でも出荷基準のメロン生産は可能であること、そしてネットの詰まり具合や樹形には土壌水分が関係している可能性が示唆されました。

今後は、定植直後から灌水条件を変えることで、適切な灌水量を明確化し、新規就農者でも高品質なメロンを栽培しやすくするためのデータ構築を目指します。



企業 発表

『150年の歴史と最新技術のハイブリッド型農業』

株式会社青木農園 代表取締役 青木 文優氏

青木農園は静岡市清水区で150年続く農家で、青島みかん、太田ポンカン、はるみ、スルガ甘夏の4種類を中心に柑橘の栽培や加工品の製造販売を行っています。長い歴史の中で受け継がれてきた土地や技術や知識を基盤に、最新の品種や技術を取り入れながら、良い所は残し挑戦すべき事には大胆に挑戦していく姿勢を大切に農業に取り組んでいます。栽培面積は現在拡大中で青果の取り扱い量も増やすと同時に、B品や規格外の果実の有効活用として加工品の製造販売にも積極的に力を入れています。前職で培った知識を活かし大手百貨店、グロサリーストアやホテルを中心に販売先を増やし、現在では台湾にも輸出を行っています。



【講師略歴】

静岡県立清水東高等学校卒業、東京農業大学 国際情報学部 食料環境経済学科卒業後東京荏原青果株式会社（太田市場）に入社。その後、株式会社エスアイシステム（7&I HLD 専用ベンダー）を経て現在に至る。

講演

『ハウス栽培の野菜の収量を上げるCO₂施用技術』

静岡大学 農学部 生物資源科学科 教授 鈴木 克己氏

冬季の静岡県では晴れる日が多く、気候も比較的温暖であるため、農業用ハウスを利用したトマト・メロン・イチゴなどの生産が盛んです。ハウスの中は日光により温められ、寒い冬でも作物にとって快適な温度になります。暖かな日差しを受けたハウスの中で作物を栽培すると、作物は盛んに光合成を行います。光合成は葉の中で光エネルギーを利用し、水と二酸化炭素（CO₂）を原料に、糖を作り出す反応で、作った糖は作物の成長と果実の肥大などに使われます。閉め切ったハウスの中ではCO₂は作物にどんどん吸収されていき、ハウス内のCO₂濃度は外気のCO₂濃度よりも下がってしまうことがあります。そうすると光合成に必要なCO₂が少なくなるため糖の生産も下がってしまいます。そこで、施設園芸ではハウス内のCO₂濃度を高めるCO₂施用を行います。今回、ハウスの中で行うCO₂施用の目的や、有効な方法などについて皆様と考えたいと思います。



【講師略歴】

農研機構野菜茶業研究所を経て、2014年4月静岡大学農学部に着任。専門は野菜園芸学で、主に施設園芸における野菜の安定生産技術に関する研究。施設内で生じる生理障害を減らす対策技術、夏の暑熱対策としてバイオスティミュラントの効果、冬季のCO₂施用に関する研究を進めている。